



初夏から秋にかけての農作業と豊作を祝う村や家の行事－昭和 30 年代を中心として

時期	農作業	信仰行事・村の行事	時期	農作業	信仰行事・村の行事
6月～7月	田植え・麦刈り	むいか 六日うどん 7月6日 しゅうかく こむぎ むいか 収穫した小麦で「六日うどん」を作り仏様や神様に供え豊作を感謝する	7月中旬～9月	除草・水の管理	わ せ しんまい たわら 早稲の新米がとれると、俵にならない半端な米を精米して炊き、神様や仏様に供え家族も食べる。
		たう いね たば 田植えの最後に苗を2束、家の荒神様に供える			カッキリ ゲー・コッキ リゲー わ せ いねかり おくて いねこ 早稲の稲刈り後や奥手の稲扱き(脱穀)後に、アズキゲー(団子入り粥)を夕飯に作り神様や仏様に供え、家族も食べた。
7月下旬～8月	水の管理・除草	おおやまこう 大山講 春山(4月) 夏山(7月末～お盆前) かながわけん おおやまあぶりじんじや さんばい 神奈川県大山阿夫利社に参拝(代表者による雨降り祈願・出世祈願のため、男子が同行する)	9月～10月	稲刈り・脱穀	だっくく ちょうせい 米の脱穀・調整後、道具類の始末が終わると、五目御飯を作り神様や仏様にお供えした。
		おおやまとうろう 大山灯籠 (別名：石尊灯籠) (7月末～お盆) おおやまもう 大山詣での安全を祈り、夏山の間、毎晩大山灯籠に火をとます。灯籠は木製の組み立て式で、大山講が行われなくなった現在でも高虫、貝塚など市内の各所で			うるいど しきさんば 閨戸の式三番 10月 第2土曜日 さいたまけんしていむけいみんぞくふんかざい うるい 埼玉県指定無形民俗文化財。閨戸の愛宕神社の秋祭りの日に奉納される豊年を祝う民俗芸能
		てんのうさま 天王様 7月14～15日 夏祭り。神輿をかついだり、お囃子を乗せた山車をひいたりする。獅子頭を持って村内を回る	注「蓮田市の年中行事」ほかより作成。下線を引いたものについては、現在は見られなくなっています。講については、代表者が行く代参講から、個人で参拝する形に変化しています		

翁の舞 (写真1)



三番叟の鳥跳び (写真2)



『閨戸の式三番』
日時：
10月第2土曜日
午後6時より
場所：
上閨戸愛宕神社
ぜひ、ご覧になって
ください

熊谷市付近の利根川支流には、中条堤 (図参照) と呼ばれる自然堤防を活用した人工堤防があり、江戸から明治時代にかけて大洪水の進行を阻みました。

上流の場所で川が氾濫すると、下流にあたる蓮田市にも被害を大きくもたらしました。

なお、記録に残る最も古い洪水は、天平宝字2 (758) 年の毛野川 (鬼怒川) 洪水が記録に残されています。

《秋の祭り》 爽りの秋と人々の祝い・・・

秋に行われる祭り・行事は、豊作祝い、あるいは収穫感謝のための祭りであり、春の予祝・祈願と対応しています。神社での祭典、獅子舞や神楽、芝居などが行われてきました。県内に唯一伝承されてい

る「閨戸の式三番」もこの行事の一つと言えます。

毎年10月第2土曜日 (以前は14日) に奉納されますが、『能楽』の翁から起こったもので「豊年を祈り」・「繁栄を祝う」めでたい舞で、白い面の翁 (写真1) と千歳、黒い翁面の三番叟とが次々に舞います。初めに翁が出て儀礼的・呪術的な舞を行い、その後三番叟が鳥跳び (写真2) などくだけた調子で面白く演じて見せます。舞の中には種蒔き等が含まれ、農作業に非常に係わりの深いものであり、収穫の終わった農民に一時の憩いを与えたことでしょう。

【参考文献】

『蓮田市史通史編I、近世資料編I、II』、『春日部市史第6巻通史編II』、『埼玉の祭り・行事』、『今に伝える農家のモノ・人の生活館』、『アーバンクボタNo.19』、『利根川百年史』